

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供



干布小学校だより

7月号 R2.7.29

天童市立干布小学校

校長 多勢 弘子

本物から学ぶ

地域の人材や素材等、
本物に触れる学習づくり

人としての土台をつくる子供時代には基礎的な学習とともに、自然や人から直接学ぶことが大事だと考えています。

特に、干布地区は季節ごとの植物や昆虫、心地よい風土を肌で感じることができる素敵な所です。今年はイノシシの出没が続いていますが、それも視点を変えれば、新たな気づきや学びがあります。

おらほの学校づくり委員会の皆様をはじめ、地域の方々に講師やサポート等のご協力をいただいての授業が始まりました。

これまでの知恵や経験が、話や体験によって、子供たちに実感として熱く伝わっています。教科書やインターネットで見るよりも、はるかに子供たちの心を動かしています。

また、専門分野の方々による出前授業も計画しています。

これからもコロナ感染症対策を講じながら、子供たちの「本物体験」を大事に進めていきます。

今後とも、おらほの学校づくりへご協力お願いいたします。



自然クラブ（缶ぽっくりづくり）
高橋一郎さん（奈良沢）



5年 めだかの学習
佐藤政則さん（原町）



5年 SDGs を学ぶ
今田裕美さん（出田原）



4年 紅花学習
大山るり子さん(わたしの部屋代表)



パソコンクラブ
下天広翔太さん(フィブス・ラボ)



4年 社会
県建設技術センター下水道事業所



6年 租税教室
税務署広報官

1億円
重い！

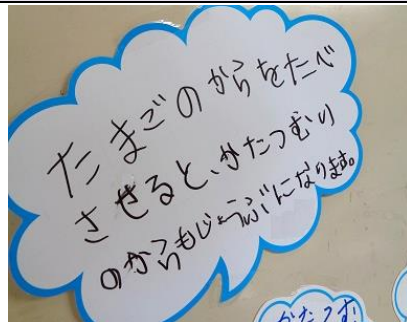
生活と結び付けて

つなぐ・かわる

小学生の学習は生活と結びつけることが大切だと考えています。生活の中で「なぜ」を発見し調べ、学習したことを生活の中で生かす（つなぐ）ことで力が身につく（かわる）と考えています。

1年教室の前は、子供たちが捕まえた生き物ランドに様変わりしています。ダンゴムシやカタツムリ等の観察をして気づいたことをカードに書いて壁に貼っています。

先週はカタツムリの卵が見つかりました。私も小さい頃はカタツムリをよく見つけましたが卵は初めて見ました。カタツムリは生まれた時から小さな殻を背負って出てくるとのこと。



でも殻はどうして固くなるのかな。どうやって殻は大きくなるのかな。

そんな疑問を投げかけるとカタツムリの通った後のネバネバが乾いて固くなるのかもしれない。それを使うのかも。

ダンゴムシはコンクリートも食べるから、食べ物によるんじゃないのかな。

子供たちは見たこと聞いたこと、体験したことから考えていろいろ答えます。

鶴岡にクモの糸を研究し人工繊維を開発した会社があります。もしかしたら、カタツムリの殻の素材で強靱な家ができたらすごいことですね。子供たちとそんな夢を語っています。

知識を詰め込むのではなく、知識を生かす学びを大事にしています。子供自身が日常生活に学びがたくさんあることを知り、身体を動かし五感を働かせて学ぶことの楽しさを、子供時代に見出してほしいと願っています。



8月

主な行事予定

3日(月)	安全点検
7日(金)	1学期終業式 通学班長会
8日(土)	夏季休業(～20日)
21日(金)	2学期始業式 発育測定(～26日) 学校保健委員会
24日(月)	全校テスト①(～28日)
25日(火)	朝会
27日(木)	眼科検診



今年の夏休みは8/8～8/20の13日間です。臨時休校の分を補うために当初の計画より10日間短くなります。学習進度は9月末をめどに追いつく予定です。学校再開後は6時間の授業が多くなり、家でゆっくりできる時間が少なく、疲労感やストレスもあったでしょう。そこで課題を減らしました。体調を整えることと家族の時間を有意義に過ごすことを第一にお過ごしください。

これからも感染状況による変更が予想されます。詳細については随時学校ホームページでお知らせしております。学校の様子も含め、ぜひご覧ください。
学校ホームページ <https://www.hosinuno.jp/>

